

顔と顔 人と人 心と心がつながる

岐阜県ファンクラブ

会報 第2号



今年もあとわずか・・・

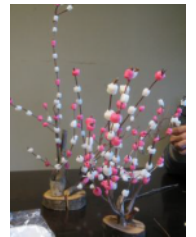
12月も中旬、会員の皆様も慌ただしい毎日をお過ごしのことと思います。日本各地には新年を迎える習わしがあります。みなさんの地域やふるさとでは、どんなふうにお正月を迎えるのでしょうか・・・今回は、飛騨と郡上の迎春準備をみてみましょう。

飛騨の新年を彩る・・・花もちづくり

冬になると生花も育たない雪深い岐阜県飛騨地方では、花に見立てた「花もち」づくりが師走の風物詩として受け継がれています。

花もちの台には、クリ、カエデ、ケヤキ、エノキなどの木が使われます。つきたての白い餅と食紅で赤くした餅を枝の大きさに応じて間隔をおいて数珠玉のように巻き付けます。

今では、小さな据えるタイプのものが主流となりましたが、大きな花もちは座敷の横柱に取り付け、枝には福の神、大福帳、大判小判、鶴亀などを吊します。この花もちは、ひな祭りに枝から外し油で揚げ、「あられ」にして食べます。ちなみに、春の訪れが遅い飛騨地方では4月3日がひな祭りです・・・



【朝市・年の瀬市】

飛騨高山の朝市（陣屋前、宮川）では、この時期「花もち」が販売されます。また、陣屋前で開かれる「年の瀬市」でも、「花もち」や「しめ縄」なども販売されます。
(年の瀬市：12月27日～31日 7:00～16:00 ※31日は正午頃まで)

【飛騨の里】

高山市の飛騨民俗村「飛騨の里」では、「花もち」や「しめ縄・しめ飾り」など、飛騨の迎春準備を体験できます。

飛騨の里 電話：0577-34-4711 <http://www.hida.jp/hidanosato/>

難を転ずる縁起物・・・郡上南天

「難を転ずる縁起物」として、お正月の床の間を飾る南天（なんてん）。

岐阜県郡上市は南天の房出荷量日本一を誇ります。ところで、造り酒屋の軒先にぶら下がる「杉玉」をご存知でしょうか。毎年、緑の杉玉を吊すことで新酒ができたことを知らせるものですが、郡上八幡には「南天玉」なるものが存在します。

木の枝で編まれた玉に真っ赤な南天の房を差し込んでできた直径25～30cmの南天玉。使われる南天は5～6kgにもなります。

できあがった南天玉は、新年を迎える商店などの軒先に吊されます。「難を転ずる縁起物」としてだけではなく、真っ赤な南天玉が時間とともに徐々に黒く変わっていく様子から、「商売繁盛」を願って飾られるのです。



南天は11月下旬から12月上旬にかけて出荷されます。

毎年12月中旬（今年は12～13日）に開催される「郡上八幡ふるさと南天まつり」では、即売会や南天アートの展示、アレンジメント教室などが行われます。赤く色づいた南天で彩られた郡上八幡の古い町並みを散策してみてもいかがでしょうか。

ふるさとぎふ体験モニターツアー

岐阜県では、実りの秋、食欲の秋、紅葉真っ盛りの岐阜県でふるさと暮らしを体験していただき、岐阜県への移住・定住を推進するため、10月24日(土)・25日(日)の2日間、郡上市と高山市において「ふるさとぎふ体験モニターツアー」を実施しました。

東は鎌倉市、西は神戸市から計16名が参加、農作業体験やバーベキューをしながら地元の方との交流を深めました。2日間のツアーで、地域の人々の温かさや美しい自然に触れ、「岐阜県に住んでみたいと思うようになった」「田舎暮らしもいいなあと思うようになった」「自分では住めないけど移住を考えている人に岐阜県を勧めたい」など、移住につながるような感想をいただきました。

ツアーには岐阜県ファンクラブの会員も4名が参加されたほか、参加者のうち3名が新たにファンクラブに入会されました。



大きなサトイモの葉っぱはお面にも！！

【1日目】 郡上市

郡上市では、郡上八幡の町並みを「暮らす」という視点で見学。その後、明宝二間手地区で古民家を再生した田舎生活体験宿「源右衛門」で地元の方々の指導を受けながら、農作業を体験しました。サトイモ掘りでは、掘ったサトイモを角のある小石と一緒に石臼に入れかきまぜると、簡単に皮を剥くことができる・・・里山暮らしの知恵にびっくり。

夕方からは、地元の皆さんと参加者が、地元の美味しい食材を味わいながらの交流会。素朴ながらも心のこもったおもてなしに、参加者一同「感謝」。たき火を囲んで心も体も温かくなりました。



郡上八幡のあちこちで美味しい水が飲み放題！



トラクターの運転に挑戦！



草刈り機も安全に使いこなしました



サトイモ掘りにも挑戦！掘ったサトイモは石臼で皮をむき、ゆでて焼いて生姜醤油で食べるのが郡上流



交流会は、郡上市明宝二間手地区の古民家「源右衛門」で行われました



郡上名物「ケイちゃん」を豪快に焼きます



「ふるさと栃尾里山倶楽部」の皆さん。農業体験を指導いただきました



実際に移住された方の体験談を聞きました



暗くなっても交流が続きました

【2日目】 高山市

高山市では、御嶽山や乗鞍岳を望む高原の農場で大根の収穫を体験しました。会社員から農家へ転身しこの農場を営む藍田さんや、昼食時には、関西からの移住・就農した泉さんから、農業の楽しさや苦労話をうかがいました。

紅葉真っ盛りの高原での昼食は自然の恵みいっぱい。自然や地域とうまく付き合うことが田舎暮らしのコツのようです。



藍田農園で大根の収穫を体験



会社員をから農家へ転身した藍田さん



関西から移住、就農した泉さん



昼食は自然の恵みをいただきました



飛驒牛の飼育も見学しました

移住実践者インタビュー

第1号に続いて岐阜県に移り住んだ方のお話をうかがいました。
今回は、関東から高山市に移り住まれた原田さんと、神戸から郡上市に移り住まれた北村さんです。

「人の温かさと豊かな自然に囲まれて、ずっと続けていきたい仕事に出会った」

原田 美春 さん(高山市)

私が移住を決めた一番大きな理由は、人の温かさと豊かな自然ですね。本当に良いところだと思います、私の友達も、とても感動して年に何度も遊びに来るんです。春夏秋冬を楽しめる飛騨高山をもっと多くの人に知ってもらいたいですね、

高山に来る前は、関東で役者を目指し活動していたんですが、今から3年ほど前に役者を辞め、自分が本当にしたい仕事は何かと考えて、昔から自然が大好きだったので、自然のあるところに行きたいと思ったんです。

仕事は短期間の予定だったんですが、まわりの方が温かくて、すっかり溶け込んでしまっ。一度は東京に帰ったんですけど、忙しい時は是非!ということで、奥飛騨と関東を行ったり来たりを続けました。都内で仕事をしながら免許をとったり、車も買ったり、着々と移住の準備を進めたんです。

住むところを探すときは、正直困りました。まず、情報が無いんですよね。私が探していた頃は、不動産屋がどこにあるのかもわからなくて・・・それで、いろんな人

に相談したんです。そしたら色々教えていただいて、アパートや新しい仕事を見つけてくれることが出来たんです。つくづく人との出会いに恵まれていると感じました。本当に親切なんですよ。おせっかいすぎるほど親切なんです。ほんとにびっくりしたんですよ。初対面の方でも気軽に話しかけてくれたり、いろんな名所に連れて行ってくれたり、山菜採りとかキノコ採りのコツまで教えてもらいました。

今は、ひだ清見観光協会に勤務しながら、観光協会の仕事がないときには、インタープリター(自然解説人)としての仕事もしています。インタープリターの仕事は、当時一緒に働いていた先輩が自然に感動する私を見て、養成講座を紹介してくれたのがきっかけです。

この職場には本当に満足しています。ずっと続けていきたい仕事に巡り会えて感じています。これまでに学んだことも仕事に活かせるし、大好きな自然をPRできる。少しでも地域に貢献できるよう頑張りたいです。

移住を考えている方へアドバイス!

不安なことはたくさんあると思いますが、まずは、行動を起こしてみるといいと思います。以外と何とかなるものでした。飛騨は温かい方が多いですから。それから、私の場合は短期のお仕事というのがきっかけだったんですけど、すごくいい機会だったと思います。



「都市と田舎の交流を! 若き移住者の新たなチャレンジ」

北村 周 さん(郡上市)

清流吉田川に惚れたことと、地域の方の繋がりやの強さを感じたんです。それで郡上に移住を決めました。

僕は、神戸市の出身なんですが、阪神淡路大震災をきっかけに田舎での暮らしに憧れを持つようになったんです。最初は漠然とスローライフというか自給自足のような生活をイメージしていました。

大学時代に保育士を目指していて、その時にサークルで知った郡上市八幡町での子どもの自然体験のサポートスタッフのアルバイトがきっかけで郡上に通うようになって、それでいろいろな方達と知り合う中で、特にじいちゃん、ばあちゃんの元気さ、強さに驚いたんです。すごい経験値とそれを何も知らない僕らに伝えられるコミュニケーション能力があって、すごく格好良く「自分もこんなスーパーじいちゃんになりたい」って思ったんです。

大学卒業後は郡上で暮らしたくて、一年間バイトをしながら週末などには郡上に通うという生活を続けました。家探しには苦労したんですが、一年間通ったことでいろいろな人と知り合っ、ここを紹介しても

らえたんです。現在は、郡上市の明宝にNPO法人「こうじびら山の家」を設立して、キャンプ場を運営しながら都会と田舎の交流のお手伝いをしています、でも、だいたいは地域の子もたちと山や川で遊び、じいちゃんたちに文化や技術を教わっている毎日。現在は炭焼きの修行中!

移住して、3年経ちましたが、すごく「濃い」3年間でした。何もないからこそ、自分に今何が必要なのかを一個一個考えて、そして一個一個作っていくことができた。自分の生活を見つめ直すにはすごく良い機会でした。実はこの「こうじびら山の家」のあったところは、昔は地域のみんなの集まる賑やかな場所だったんです。一度寂れてしまったんですけど、また賑やかになりつつあるのが地域の人にとっても嬉しいようでいろいろと声を掛けてくれるんです。今では、いろんな人が手伝ってくれて、いろんな人の思いがどんどん膨らんできて、ここがみんなの家ようになってきたのを感じるんです。それがすごく嬉しいです。

移住を考えている方へアドバイス!

近所の方に何でも相談すること、頼ること。そして、自分が頼られたら頑張ること。一人で暮らしているのではなくて、地域のみんなで暮らしていることを忘れずに。



期間：2010年1月～2月

ぎふの田舎を実感！

「ぎふの田舎へいこう！」キャンペーン2009 in Winter

- 冬のグリーン・ツーリズムを体感できる8つのプランを特別料金でご提供
- 自然いっぱい、人との出会い最高の **ぎふの田舎**で泊まって、体験し、感動してください
- ニホンミツバチと出会う in 板取 ~鳥の目・魚の目・虫の目で自然と田舎文化の再生!!~ (関市)
- 冬の田舎の楽しみ方 ~家族で雪遊び&イノシシ鍋を作ろう!~ (郡上市)
- 炭焼き&猟をちょっと体験してみよう! 郡上明宝・冬の暮らしと遊びモニターツアー (郡上市)
- 伝統食で冬を味わおう! の旅 (郡上市)
- 火と親しみ田舎のスローライフを満喫する (東白川村)
- 飛騨高山 乗鞍の麓で雪遊びと冬の田舎暮らし体験 (高山市)
- 奥飛騨冬物語 (高山市)
- 雪・氷・山林 ~ひだ朝日の冬の山里文化体験 (高山市)



【お問い合わせ】

岐阜県農政部農業振興課 構造改善担当
 TEL:058-272-8422 FAX:058-278-2682
 E-mail:c11415@pref.gifu.lg.jp

[ぎふグリーンツーリズム](#) [検索](#)

ぎふ グリーン・ツーリズム

Gifu Green Tourism

グリーン・ツーリズムとは、農産漁村に滞在して農林漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ旅のことです。



岐阜県で、あなたにぴったりの“ふるさと暮らし”をみつけませんか！

ぎふ ふるさと暮らしセミナー

in 東京

高山市、郡上市と連携して、岐阜県のふるさと暮らしの魅力や、住まい、就業、就農、おためし移住体験などの紹介や相談を行います。

日時：平成22年1月29日(金)
18:30~20:30(受付18:00~)

会場：ふるさと暮らし情報センター
東京都中央区銀座4-14-11 七十七ビル3F
(地下鉄「東銀座」駅 5番出口すぐ)

主催：岐阜県

※事前申込みが必要です。

詳しくは同封のリーフレットをご覧ください。



JOIN & 日本まんなか共和国 田舎暮らしセミナー

大阪

日本まんなか共和国の4県の魅力や施策を情報発信します。

日時：平成22年1月24日(日)
13:00~16:00

会場：大和ハウス工業(株) 2階会議室
大阪市北区梅田3-3-5

主催：移住交流推進機構(JOIN)
日本まん中共和国

(岐阜県・福井県・三重県・滋賀県)

※事前申込みは不要です。

直接会場へお越し下さい。

<事務局から>

岐阜県ファンクラブの設立から5ヶ月。180名を超える方にご入会いただきありがとうございます。とりあえず会員募集を始めたものの、会員の皆様のニーズが把握できず、ご期待にお応えできていないのが現状です。アンケート等で皆様のご意見を伺いながら、今後のファンクラブ運営に努めたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

今年もあとわずか。会員の皆様にはお元気で良いお年を迎えられますことをお祈り申し上げます。

【編集・発行】 岐阜県ファンクラブ事務局

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1 岐阜県地域振興課内

TEL:058-272-8078 FAX:058-278-2568

E-mail: c11161@pref.gifu.lg.jp

会報誌は岐阜県ファンクラブのHPでもご覧いただけます。

[岐阜県ファンクラブ](#) [検索](#)

ふるさと納税にご協力を！

“岐阜県を応援したい”という思いを寄付という形で実現しませんか・・・詳しくは同封のリーフレットをご覧ください。